

令和 5 年 5 月 16 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K11867

研究課題名（和文）独逸の観光事業に見る「ロマンティック・イメージ」形成についての文化史的研究

研究課題名（英文）A Cultural Historical Study on the Formation of "Romantic Image" in Tourism of Germany and Austria

研究代表者

小宮 正安（Komiya, Masayasu）

横浜国立大学・大学院都市イノベーション研究院・教授

研究者番号：80396548

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：ロマンティック街道に代表されるように、ドイツとオーストリアにおける「ロマンティック」は、両国の観光事業にとって不可欠な要素である。

本研究では、ロマンティックという広く流布したイメージを、ドイツ・オーストリアにおける観光事業の側面から歴史的に掘り下げた。具体的には、1) ロマンティックとツーリズムが相互に関係する19世紀以降に焦点を当て、2) ドイツとオーストリアが観光立国として歩む中でいかに「ロマンティック・イメージ」が育まれ、それが観光の現場へ用いられたかを文化史的に検証し、3) あわせて我が国のツーリズムにおけるイメージ戦略への応用性の検討をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

観光立国として成功を収めているドイツとオーストリアにおいて、ロマンティック・イメージを密接に絡ませた観光のあり方が展開されてきた歴史を包括的な視座から明らかにした。またそれを通じ、次世代の観光立国を目指す動きが一段と加速している我が国において、特にイメージ戦略を中心とした観光事業の展開や観光財源の確保にも有益な視座を確立できた。

研究成果の概要（英文）："Romantic" in Germany and Austria, represented by the Romantic Road, is an essential element of tourism in both countries.

In this research, the widely spread image of romanticism is explored historically from the perspective of tourism in Germany and Austria. Specifically, I focused on 1) the 19th century and beyond, when romanticism and tourism are mutually related, 2) how the "romantic image" was nurtured as Germany and Austria progressed as tourism-oriented nations, and how this was reflected in the field of tourism, and 3) I examined the applicability to the image strategy in tourism in Japan.

研究分野：総合人文社会

キーワード：観光学 地域研究 文化史 社会史 芸術史 音楽史 西洋史

## 1. 研究開始当初の背景

第二次世界大戦以降、ドイツとオーストリアでは、「ロマンティック」に対する再検討が活発におこなわれてきた。

一般的にロマンティックは、「ロマンス語」に由来し、感受性や主観を重視する19世紀の芸術・思想潮流 = ロマン派を指すと言われている。ただしシュルツやユーリングスの研究によれば、ドイツやオーストリアの「ロマンティック (Romantik)」には、中世以来ドイツ/オーストリアに存在した「神聖ローマ帝国」のイメージが強い影響を与えているとされている。

理由としては、19世紀のドイツ語圏(その中心を成すのが現在のドイツとオーストリアである)におけるナショナリズムの高揚を背景に、統一ドイツ形成にあたっての先駆的存在としての神聖ローマ帝国へ寄せる追慕が挙げられる。と同一、「ロマンティック」が近代以降のドイツとオーストリアにおいて、濃厚な政治性を伴う芸術・思想潮流と化したことは見逃せない。この動きが20世紀に入ると、ロマン派芸術を国威高揚の手段として用い、ドイツとオーストリアに君臨したナチスの戦略にさえ結びついてゆく。

こうした「ロマンティック」への関心を背景に、近現代のドイツとオーストリアにおいては、「観光」と「ロマンティック」が相互に密接な関係を保ってきた。1950年に策定されたドイツのロマンティック街道は、その典型的な一例である。

ただし、ロマンティック研究そのものは、美学や文学を皮切りに、近年では政治学や社会学といった領域にまで広がりを見せているにもかかわらず、ドイツやオーストリアの観光における「ロマンティック・イメージ」の形成と発展について、歴史的に掘り下げた包括的研究は未だに存在しない。本研究は、従来看過されてきたこのテーマを掘り下げ、これまでのロマンティック研究にはない独自性と創造性の上に、ドイツ・オーストリアにおける「ロマンティック」をキーワードとした観光上のイメージ戦略の歴史を検証した。

## 2. 研究の目的

ロマンティック街道に代表されるように、ドイツとオーストリアにおける「ロマンティック」は、両国の観光事業にとって不可欠な要素である。実際19世紀におけるナショナリズムの高揚の中、ロマンティック・イメージと結び付く神聖ローマ帝国の文化遺産は、同帝国の中心を成すドイツとオーストリアにおいて、政治性・社会性をも帯びた重要な観光資源の役割を担い、今日に至っている。だが、ロマンティックという広く流布したイメージを、彼の地における観光事業の側面から歴史的に掘り下げた包括的研究は未だ存在しない。

こうした状況を受けて本研究は、1)ロマンティックとツーリズムが相互に関係する19世紀以降に焦点を当て、2)ドイツとオーストリアが観光立国として歩む中でいかに「ロマンティック・イメージ」が生まれ、それが観光の現場へ用いられたかを文化的に検証し、3)あわせて我が国のツーリズムにおけるイメージ戦略への応用性の検討を、3つの主目的に据えた。

## 3. 研究の方法

本研究は、従来の「ロマンティック」研究を踏まえつつも、ドイツとオーストリアの観光産業において、各時代の政治体制を超越した「ロマンティック・イメージ」が形成されていった過程

について、包括的に掘り下げた。またそれゆえに、1) 19世紀以降現在に至るまでロマンティックの要素を前面に掲げた観光戦略を打ち出している歴史的背景とは何か。2) 「ロマンティック・イメージ」の変遷を観光という側面から再検証した場合、それらはいかなる相貌を帯びて立ち現われてくるのかという2つの問いを立て、「研究の目的」で記した3つの主目的と連想させながら、研究を進めた。

この問いに対する結論を導くにあたっては、単に観光学の領域のみならず、ドイツやオーストリアの政治・経済・芸術における動向を俯瞰する視座が必要であった。そのために、人間の営みが色濃く表れる観光という分野において、パンフレットや土産物等、AIDMA等の法則において重視されている対象を有効に扱い、既存の学問領域を複合横断的に捉えうる文化史的アプローチに基づきつつ、各種書籍購入をはじめ、オーストリア国立図書館、ミュンヘン州立図書館、ローテンブルク、ディンケルスビュール、フォイトヴァンゲンの観光局等、また国内においては草津の観光局等で文献調査や文献収取を実施した。

またこの研究方法を補強するため、ドロマン派芸術に造詣の深いウィーン楽友協会資料館前館長オットー・ビーバ教授、同前副館長イングリード・フックス教授等の研究者をはじめ、実務家としてロマンティック街道協会会長であるユルゲン・ヴンシェンマイヤーへのインタビュー調査等をおこなった。

#### 4. 研究成果

研究にあたっては、ドイツとオーストリアにおける「ロマンティック・イメージ」の歴史を俯瞰し、A) 神聖ローマ帝国時代の文化遺産を用いた観光政策の方法、B) 政治と観光の相互関係について、多角的分析をおこなった。

時代的には、1) 19世紀から20世紀初頭にかけての君主制期における「ロマンティック・イメージ」の位置づけと観光事業との結びつき、2) 第一次世界大戦後の共和制誕生下における「ロマンティック・イメージ」をめぐる、新生ドイツとオーストリアの観光政策の変化、3) ナチス・ドイツ及び四カ国統治下における「ロマンティック・イメージ」の利用の実態、4) 1950年代に主権を復活して以降、東西冷戦下における「東西」ドイツとオーストリアにおけるマス・ツーリズムの発展と「ロマンティック・イメージ」の世界的展開、5) 東西冷戦終結後、EU加盟以降の時代における新たな観光政策としての「ロマンティック・ツーリズム」という5つの時代と5つのトピックに区分をおこなった上で、現地での資料収集やインタビューをも含めた詳細な調査を重ねた。

同時にドイツとオーストリアにおける神聖ローマ帝国時代の代表的都市であるフランクフルトとウィーン、代表的観光街道であるロマンティック街道とアルペン街道を具体的な事例の中心に据えながら、観光政策を通じて浮かび上がるロマンティック・イメージの変遷、並びにそのようなイメージに基づいて作られる各都市や観光街道のイメージが「観光立国」としてのドイツやオーストリアにいかなる形で反映されたのか、という問題についての詳細な分析を行った。

ただし、元々研究の最終年度に予定していた2020年度以降コロナ禍の影響により、本務校よりヨーロッパへの渡航が禁止される中で、それまでの研究のフォローアップができないという状況が続くこととなった。ようやく2022年度にヨーロッパ渡航ができる状況になり、実際に研究調査のための出張をおこなったが、ドイツ・オーストリアにおいてもコロナ対策のための様々な規制が残る中、予定していた研究調査が完全に成し遂げることができなかったのは、不可抗力とはいえ極めて残念である。

ただしこのような状況下ではあったものの、1) 政治体制の変化の中で「ロマンティック・イ

メージ」が観光事業の重要な要素として継承された経緯、2)民間レベル(観光産業、観光業等)における「ロマンティック・イメージ」の受容と発展の歴史に関する検証を推進するとともに、3)イメージ戦略をめぐる日本とドイツ・オーストリアのツーリズムの比較分析を通じ、4)我が国で展開される、「ロマンティック・イメージ」を通じたドイツ及びオーストリアの観光戦略、並びに5)そこから演繹される我が国のツーリズムに対する方法論の検討をおこない、ドイツとオーストリアが観光立国となるにあたって「ロマンティック・イメージ」がいかなる意味を持っていたかについて明らかにすることができた。

なお研究の詳細な成果については、講談社から刊行予定の単著を通じて公開する予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 60-2
2. 論文標題 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 ニューイヤー・コンサート2021 プログラムから見るメッセージ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 音楽の世界	6. 最初と最後の頁 11-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 11
2. 論文標題 メルヒェンの時代へ... フンパーディング没後100年に寄せて 第1~3部 曲目解説	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京春祭マラソンコンサート プログラム	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 18
2. 論文標題 《こうもり》が映す世紀末ウィーン	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト J.シュトラウス 世：喜歌劇こうもりプログラム	6. 最初と最後の頁 58-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 298
2. 論文標題 中世と近代の狭間で ~トリスタンとイゾルデ~	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 モーストリークラシック	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 298
2. 論文標題 バイエルン王国という存在 ~ワーグナーを抱えたルートヴィヒ2世~	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 モーストリークラシック	6. 最初と最後の頁 68-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 0
2. 論文標題 社会を映し出すメルヒェン	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京春音楽祭公式プログラム	6. 最初と最後の頁 86-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 283
2. 論文標題 社会を映し出すメルヒェン	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 モーストリークラシック	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 59
2. 論文標題 新型コロナウイルスを巡ってII ウィーンの音楽界における「協会」の存在とは? ~コロナ禍の音楽活動から考える~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 音楽の世界	6. 最初と最後の頁 4-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 59
2. 論文標題 新型コロナウイルスを巡って 真の創造力とは何か? ~ヨーロッパ史に見る《危機の時代》の芸術から考える~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 音楽の世界	6. 最初と最後の頁 10-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 25
2. 論文標題 忘れられれば幸せ 《こうもり》 慰めのスローワルツ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Atre	6. 最初と最後の頁 4-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 58
2. 論文標題 「オーストリアの今」を映し出したウィーン・フィル	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 音楽の世界	6. 最初と最後の頁 4-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 267
2. 論文標題 レクイエムとは何か レクイエムとロマン派	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 モーストリークラシック	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 270
2. 論文標題 ベートーヴェンが生きた18～19世紀の欧州事情	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 モーストリークラシック	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 1
2. 論文標題 スペイン幻想はどこから来たのか?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Opera 2019/2020 Season セヴィリアの理髪師プログラム	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 267
2. 論文標題 シューベルトとドイツ・リート ドイツ・リートの歴史と背景	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 モーストリークラシック	6. 最初と最後の頁 14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 261
2. 論文標題 都市で巡るワーグナーの生涯	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 モーストリークラシック	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 小宮正安	4. 巻 257
2. 論文標題 ウィーンはなぜ《ソナタの都》になったのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 モーストリークラシック	6. 最初と最後の頁 16 - 17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻
2. 論文標題 魔弾の射手 作品解説	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 兵庫県立芸術文化センター プログラム	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻 254
2. 論文標題 19世紀末のウィーンはなぜ交響曲作曲の中心地になったのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 モーストリークラシック	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小宮正安	4. 巻
2. 論文標題 モーツァルトとその時代	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新国立劇場 プログラム	6. 最初と最後の頁 31-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計4件

1. 著者名 チャールズ・バーニー、小宮 正安	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 624
3. 書名 チャールズ・バーニー 音楽見聞録 ドイツ篇	

1. 著者名 小宮正安 他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 五月書房新社	5. 総ページ数 329
3. 書名 ベートーヴェンは凄い!	

1. 著者名 小宮正安 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 1052
3. 書名 都市科学事典	

1. 著者名 小宮正安	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 368
3. 書名 この世のキワ 自然の内と外	

〔産業財産権〕

〔その他〕

横浜国立大学研究者総覧  
[https://er-web.ynu.ac.jp/html/KOMIYA\\_Masayasu/ja.html](https://er-web.ynu.ac.jp/html/KOMIYA_Masayasu/ja.html)

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------